

身の回りで感じたことを題材に 読者の脳裏に情景が映る魅力ある作品に挑む



狭山の元気 発見

「関越道の高崎インターで降り、市街地を抜けてしばらく走ると、やがて懐かしい秋の田舎の風景が窓の向こうに広がり始めた」

今年10月に第35回埼玉文学賞の小説部門で101編の応募作の中から正賞に輝いた、ペンネーム九条司さん海野兼夫さん・広瀬在住)の作品「浅間隠し」の書き出しです。

海野さんが文章を書きはじめたのは10代の半ば、アレルギ―で日光や風に当たられない体質のため、外出もままならず対人恐怖症にもなっていました。思春期のころでした。執筆に転機が訪れたのは、自動車の免許を取るために教習所へ通い始めたころの20代後半。それまでいかに自分が外に出ていなかっただかを感じ、人との出会いを大切にしたいと考えました。そんなときに出会ったのが直木賞作家・神吉拓郎の短編集「私生活」です。身の回りのことを題材にした作品は、読む者

を短時間で作品の中に引き込む魅力がありました。「いつかはこんなものを書いてみたい」と思いつに残る作品でした。

今回の受賞作の舞台となった「浅間隠山」は、軽井沢にほど近い、群馬県長野原町にある山です。数年前の秋に登ったとき、雲一つない抜けるように真っ青な空で360度周りが見渡せました。それがとても心に残りました。その実体験をもとに何か書き残したいと思っていました。

普段は印刷会社に勤務する海野さんは、仕事が忙しいときほど筆が進むのだそうです。平日の忙しさがエネルギーになるんです」と土曜日と日曜日の早朝、周囲が静かな時間に集中して2・3時間ほど愛用のワープロに向かっていきます。最初から青写真を練ってそこに向かうのではなく、その場で感じたこと

を大切にしています。日常生活で感じたことなど、いつもアンテナを張って五感を研ぎ澄ませ、普段からメモをとるよう心がけ「これだ」と感じたものに肉付けをしていきます。

「埼玉文学賞には、これまで2・3回応募しましたが全然だめでした。それだけに感激もひとしおです。そう話す海野さんを陰で支えてくれる奥さんは作品には厳しい批評をしますが、一番の理解者でこの受賞を一緒に喜んでくれました。「今後は、冒険的なものを書いていきたい」と語る狭山の作家・海野さんは、今まで書きためたメモから「これだ」を選び、次の作品に向けて気持ち



うんの
海野兼夫さん
第35回埼玉文学賞
「小説部門」正賞受賞



11月3日の埼玉新聞に掲載されました

自然と人との出会いが大切
それを財産に自分を見つめて
深みのある作品を書き続けたい

オピニオン 声

皆さんの「声」をお寄せください。

高齢者が気軽に出かけられる
交流の場が近くにあるといいですね



多くの方が集まり、楽しいひとときを過ごします

私は現在、一人で暮らしています。日常生活では、介護サービスを受けたたり社会福祉協議会の配食サービスなどを利用していますが、とても助かっています。

私は、今年の初めに体調を崩して入院しましたが、そのときは家のことなど、身の回りのことがとても気になりました。また、今年のような台風や新潟県で発生した地震など災害時のことを考えると、一人暮らしはとても不安になります。

高齢者が増えてきている現在、これからは私のような人も増えてくると思います。そんなときに、人と会って話をしたり一緒にお茶を飲んだりできる、交流の場があるとよいと思います。人と接する機会を増やすことで、気持ちを豊かに過ごせるのではないのでしょうか。そしてそれは遠くに出かけるのではなく、自分で行ける距離にあるのが理想

だと思えます。もしそんな場所が近くにあれば、リハビリを兼ねて歩いていくことができ、うれしく思います。

■齋藤好子さん

(入間川在住・68歳)

市の考え方

「ご意見をいただき、ありがとうございます。市民の皆さんが、いつまでもいきいきと健康に暮らせることが大切です。そのため市では介護が必要な状態にならずに元気に暮らしていただけるように青空サロンや介護予防教室などの事業を行っています。また、在宅での生活を支援するため、栄養バランスのとれたお弁当を届ける配食サービスや、安心して日常生活が送れるよう緊急通報システムなどの見守り活動も行っています。

齋藤さんのご意見にもありますように、自宅や施設でサービスを受けるだけでなく、多くの人と接することができる場としては、市内には自治会や地域で、たまり場活動をしているところが数多くあります。そこで、社会福祉協議会では、たまり場が皆さんの憩いの場となるよう、ふれあいサロン推進事業として、地域の活動を積極的に支援していきます。皆さんのご協力をお願いします。

担当・高齢者福祉課
社会福祉協議会

好きな言葉 しょうがない

こんな簡潔な文体の表現は英語にないから



Steven Katienb
スティーブン・ケイツン
(入間中学校勤務)

カナダ出身
狭山市のALTとして
勤務して1年
趣味はマーシャルアーツ(格闘技)、ギター演奏、音楽鑑賞、映画鑑賞

A ssistant L anguage T eacher

There are few things I look forward to more than Christmas. I have wonderful nostalgic memories from my childhood of the times I spent with my family over winter holidays from years past. Every year at my house, we always had a very large Christmas tree. At least 3 meters tall, it took up almost the entire living room! When I was living in a small town, friends of the family would get together a few days before Christmas to sing carols as we walked through the neighborhood. Christmas gives me a warm, fuzzy feeling. I hope you too can enjoy a bit of that feeling throughout the winter season by celebrating New Year and the holidays with your family and friends. Happy holidays!

私にとって、クリスマスほど待ち遠しいものはありません。子どものころ、毎年家族と冬休みを過ごしました。楽しくて懐かしい思い出があります。私の家では、居間のほとんどを埋めつくす3mはある大きなクリスマスツリーをいつも飾っています。小さな町に住んでいるときは、クリスマスの2-3日前に家族の友人たちと近所を歩き回りながら賛美歌を歌っていました。クリスマスは、私を温かくてふわふわとした気持ちにさせてくれます。皆さんもクリスマスや新年を祝うことで、そんな気持ちをちょっと楽しんでもらえたらと思っています。家族や友達と冬休みを楽しんでください。それでは、すてきな年末年始を！
(英文の要約)